

# 小学部五年A組

俳句

星月夜

星月夜　ながめる夜空　いやされる

花ぐもり

花ぐもり　桜がさくよ　きれいだな

風花

ふと見ると　空に風花　ひとめぼれ

大切な家族

おいしいりょうりを作ってくれるママ  
お金をあつめてくれるパパ  
うるさいけどパシリになっってくれる妹  
怖いけどかわいい赤ちゃん  
みんなぼくの大切な家族

赤池　花

桜道

ゆらりゆらりとまい上がる  
ピンクのきれいな桜道  
みんなでいっしょに登校して  
いっしょに笑うそんな道  
日本に帰ったらまた歩きたい  
小さな小さな桜道

春のおどり

若尾　藍良

葉っぱが緑に変わってきて、花がさく  
あの暖かくて気持ちいい風がふいてきて、木がおどる  
長いうでを風といっしょに、いつも新しい動きをする  
木のダンスが終わって、風も止まった  
太陽がしずんでも、また次の日に  
みんなのために木がおどる

櫻井　源峯

困った時は木を見て、風を感じて  
いっしょにおどって  
新しく美しい世界に変わる  
だから、この暖かい風が続く間  
いっしょにおどって  
この世界で新しく生まれ変わるう

益田　理歩

たからもの

ぼくの家族は  
大切だ  
ぼくの友達  
大好きだ

ぼくの家族と友達は  
全部ぼくのたからもの

ナツククラッカー

きらびやかな劇場から  
聞こえてくるオーケストラの音  
何か楽しいことが始まりそうな

私はその舞台に立ち  
憧れのあの人と  
一緒に踊るよ

夢のようなひとときを  
心にぎざみながら  
幕が下がり、オーケストラの音もやむ



合田 紗菜

ホワング ジョウ

不思議な夢

ぱっと気付いた  
わたしは宇宙にいた  
息もすえてる  
星空を歩いた  
目の前に雲が出来て 雨がふった  
すると 水たまりができた  
パシヤン パシヤン  
わたしは地球にきた  
こまっていたら  
ぱっと目の前が暗くなる  
すると 水たまりより 一步先にいた  
ゴオオフオン  
気付くと 目の前にあめが落ちていた  
そしたら 勝手に口の中に入ってきた  
わたしは太陽よりも大きくなった  
目の前を見ると 地球はちいちゃな  
チョコボールになっていた  
わたしはガリガリ 食べてしまった

太田 怜那

## サンクスギビングに乗った飛行機のウイングレット

太田 悠馬

最近、現地校の新しい友達の影響(えいきょう)で飛行機にとっても興味を持ち始めました。そこで、サンクスギビングの旅行の時に乗ったB737-900ER、B737Max9について思ったことを記します。

まず、ヒューストンからラスベガスに行く時に乗った飛行機は、B737-900ERでした。国内線ということで、とても小さく、天井が低いのが印象的でした。機内エンターテインメントサービスは、ディレクTVのチャンネルを選択(せんたく)するタイプのもので、八インチ程の小さい画面でした。映画も少ししかやっていなかったのですが、ずっとチャンネルを変えていました。

次に、ラスベガスからヒューストンにもどる時に乗った飛行機は、B737Max9でした。予定されていた機材が故障(こしょう)して時間内に直らなかつたので、予定とは別の機材が来たそうです。B737-900ERとはちがって、B737Max9は、天井も少しだけ高く乗り心地も良かったです。機内エンターテインメントサービスは、十二インチほどのよく国際線で使用されているタイプのモニターでした。いろいろな映画を選べて、アニメや音楽も選べました。父と母は、ずっと映画を見ていて楽しそうでした。同じB737とはいえ、ちがいがすごいと思いつながらヒューストンに到着しました。

この二つの飛行機に乗っておどろいたのが、ウイングレットのちがいです。ウイングレット(別名ウイングチップ)とは、飛行機の翼(つばさ)の先たんについている「小さな翼」のことで、空気のムダな流れ(渦うず)を減らして、空気の抵抗(ていこう)を小さくするための素晴らしい部品です。これがついているおかげで、飛行機はより少ないガ

ソリン(燃料)で遠くまで飛べるようになり、CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)のはい出も減らせる、地球にもコスト面にもやさしいすばらしい仕組みです。自分が知っているウイングレットの形は、エアバスA320Neoのようなものだと思いますが、形のちがいにおどろきました。

今回乗った二つの飛行機のちがいで、色々な情報が得られたので、とても興味深かったです。

## 楽しい週末

粟生 綾和

週末はいろんな楽しいことをしました。けれど、とてもいそがしかったです。

土曜日は朝早く起きて、ほ習校ではなく、水泳十チームの対こう戦に行きました。対こう戦はロゼンバーグでありました。私は平泳ぎ、バタフライ、そして個人メドレーを泳ぎました。

私の最初のイベントは四十一番目だったから、長い間家族といっしょにベンチで泳いでいる人を観ました。一番最初に平泳ぎして結構いい飛び込みをして三秒タイムをちぢめて、三等賞になりました。平泳ぎは私の一番好きな泳ぎです。

次はバタフライでした。バタフライはすごくむずかしかったけど二秒ちぢめました。そのあとに個人メドレーをして五秒もちぢめました。そして、お祝いに「くらずし」でお昼を食べて、たいやきのキーホルダーをもらいました。デザートは八十五度パン屋さんに行つて私はマンガークリームパンを選びました。あとマンガータイも買いました。

次の日には、友達のお誕生日パーティーに行きました。友達は子猫(ねこ)の里親をしているからみんなが来るのを待つ間に子猫たちと遊び

ました。

みんなが来た後、キャンバスで日没(にちぼつ)をかきはじめました。日没のかき方のビデオもありました。と中で、休けいしてケーキとアイスクリームをおやつに食べてからたん生日の歌を歌いました。食べ終わった後、みんな絵をかきを再開しました。木と山も付け加えました。終わった後、みんな絵を持ちながら写真をとりました。とても楽しい週末でした。

## 運動会

佐藤 晴登

今年ぼくは運動会でリレーの選手になりました。おおぜいの人が見ていてプレッシャーがいつぱいできん張りました。みんな足が速くて、ぼくが走るころには白組は一位と二位でした。そのまま一位になれてすごくうれしかったです。

ぼくは運動会が楽しいと思いました。なぜならぼくは運動が大好きだからです。一番好きな種目はリレーです。ぼくは走るもの大好きですが、リレーは見るのもドキドキします。お母さんが行った学校では学校の全員がリレーで走ったそうです。補習校もそうだったら毎年走れて楽しいのと思いました。

つな引きもおもしろかったです。みんなと一しよに大きなつなを引っ張るのは楽しいと思いました。一生けん命引っ張ったのにずるずる引っ張られて負けてしまいました。

五年生の種目はあまり楽しいとは思いませんでした。ルールの説明がよく分かっていなくて、前の人がすごい速さで走って来た時にはぶつかるんじゃないかとちよつとこわかったです。

来年の運動会もリレーの選手になれるといいな。

美ら海水族館

星川 実菜

七月十二日に美ら海水族館(ちゅらうみすいぞくかん)に行きました。美ら海水族館は、とても大きくていろいろな海の生き物がいました。美ら海水族館の中で一番有名なのはジンベイザメです。ジンベイザメは大きい水そうの中でゆつくり泳いでいました。

「うら側まるごとウオッチング」というツアーに参加して、水族館のうら側を見せてもらいました。ジンベイザメが泳いでいる水そうを上から見たり、エサを作る部屋を見たり、深海を調査する機械を見せてもらったりしました。

わたしの好きなチンアナゴの水そうでは、チンアナゴがケンカをしていました。かわいくておもしろかったです。

売店で、チンアナゴのグッズをたくさん買いました。また美ら海水族館に行きたいです。

初めてのアメリカの夏休み

小池 陽菜

私は、今年の四月にアメリカに来ました。日本で生活してきた私にとって、不安でいっぱいでした。しかし、現地校、日本語補習校に行つて友達もできました。

そして、アメリカに来てたつたの二か月で夏休みが始まりました。そんなアメリカに来て二か月で始まった私の楽しい夏休みの思い出です。まず、最初は友達とアートのサマースクールに行つたことです。私は英語がしゃべれないので、二時間とても不安でしたが、ほとんど絵をかいているので、英語でしゃべることはありませんでした。ゆいいつ英語

でしゃべる時があるのは、先生にアドバイスのような感じで言われた時ですが、何を言っているのか分かりませんでした。

サマースクールが終わると、サマースクールに一しよに行った友達と遊んでいました。

次に思い出に残っているのは、野球を観に行ったことです。野球スタジアムは、ドームになっており、すずしかったです。おもしろかったことは、テレビ画面に様々なえい像が流れていたことです。

次に思い出に残ったことは、フォートワースという所に行きました。フォートワースで泊まったホテルの部屋には、二段ベッドがついていて、とてもおどろきました。私は二段ベッドでねたことがなかったのですが、すごく興ふんしました。フォートワースに行った日の夜に、ロデオというものを観に行きました。チケットを買う時に、十分ぐらいすごく暑い外にいて、とけそうでした。私と弟は、行きたくないと言っていました。ロデオにも野球と同じようなテレビ画面があり、観ている人がテレビ画面にうつっている時に私たち家族がテレビ画面にうつっていてすごくおどろきました。

最後に、アメリカで感じたことは、様々な国の人たちがいて、とても楽しそうにしていることが思い出に残りました。日本と比べてもアメリカの人たちの方が陽気に感じました。

ただ、まだまだ英語が分からないことだらけなので、がん張りたいたなと思えました。

そして、アメリカの夏休みは、新しいことをたくさんできて楽しかったです。

## 一年ぶりの日本

益本 達也

ぼくは、六月二十九日と七月十八日まで日本に一時帰国しました。日本では、横浜に住んでいるおばあさんの所にとまりながら、長野、京都、大阪万博に行きました。

長野では、ヒューストンから日本に帰国してしまっただお友達に会いました。旅館の人からたからさがしの紙をもらって友達と一しよにやりに行きました。その後、みんなで温泉に入りました。その温泉は山の上にあり、ろてんぶろからの景色はすごくきれいでした。初めてゆかたを着て、夜にみんなで手持ち花火をしました。その後、夜おそくまで友達とゲームをして遊びました。一ぱくだけだったけれど、すごく楽しかったです。

それから家族で大阪に行きました。大阪旅行の二日目は、父と兄と別行動をして、母とぼくは京都に行きました。京都では、金かく寺、清水寺、ふしみいなり神社に行きました。金色でピカピカに光っていた金かく寺は、雨の中だったけれどすごくきれいでした。ふしみいなり神社は、赤い鳥居が千本続いているとすごくきれいでした。とてもきれいだっただので、絵をかきました。

三日目は家族で大阪万博に行きました。雨が強く降っていたし人がたくさんいたので、たくさんパビリオンに行くことができませんでした。一番行きたかったアメリカのパビリオンには入れなかったけれど、ぼくが生まれた国であるシンガポールのパビリオンに入ることができました、それ以外にもチリ、ペルーなどに行くことができたので良かったです。

今回の日本一時帰国は、色んな場所に行ったり絵をかいたり、友達に会ったり、たくさんのおいしい和食を食べることができて、とても楽しかったです。

## 群馬での思い出

福元 怜可

私は、六月に、群馬の豊岡小学校に体験入学をしました。この学校はお母さんの母校で、おじいちゃんの家から近くにあるのでとても行きやすいです。昨年一昨年と同じ学校で体験入学をしているので、友だちも何人か知っており、楽しみにしていました。

朝は毎日、集団登校しました。アメリカでは車で学校に行くので、学生だけでみんなで登校するのはめずらしい気持ちになりました。

昨年会った友だちは私のことを覚えてくれていました。一年ぶりなのに明るく話しかけてくれてとてもうれしかったです。休み時間やそうじの時間に一人ぼっちになることはなく、いつも周りに友だちがいてくれました。体験入学で一番の思い出は久しぶりに会った友だちと楽しく会話できたことです。

群馬のガールスカウトにも参加しました。アメリカでもガールスカウトに入っているのです。群馬のガールスカウトにお母さんが連らくしてくれて参加することができました。ガールスカウトではキャンプ体験をしました。火の起こし方、テントの立て方を学びました。外でみんなと食べる白ごはん、新せんな野菜はとてもおいしくて良い思い出です。

お母さんとはよく少林山だるま寺に散歩に行きました。群馬はダルマで有名で、そのお寺にもたくさんダルマがあります。道の両サイドは木に囲まれていて、長い長い階段を登ってお寺に着きます。空気がきれいで、お寺にいと心まできれいになってきます。

群馬に行くといつもたくさんさんの経験と思い出ができます。

## 「やなせたかし・アンパンマンの勇氣」

井上 智貴

ぼくは、梯久美子さんの「やなせたかし・アンパンマンの勇氣」を読んで、あらすじ、心に残った文、調べて分かったこと、最後に感想を書きたいと思います。

まずはあらすじです。やなせたかしは父が病死し、母ともはなれ、二才下の千尋（ちひろ）とおばさんとおじさんとくらすことになりました。そのような中、たかしはマンガ家を目指しましたが、戦争が起きてしまいました。たかしと千尋は二人とも徴兵（ちようへい）され、千尋だけ死んでしまいました。たかしは正義とは何か考えていると、幼い兄弟が一つのおにぎりを分け合っていた場面を目にしたのです。そして、たかしは正義とは何かを知り、その経験を活かして「アンパンマン」を生みだしました。

「アンパンマン」は、最初は人々の間で評判が良くなかったのですが、子ども達は「アンパンマン」が好きでした。東日本大震災が起きた際、たかしはひなん所で本当のヒーローを目の当たりにしました。その後、CDやポスターを残し九十四才で亡くなりました。

次は心に残った文章です。一つ目は、「戦争は人を殺すことだが、食べ物に分けることは人を生かすことであり、命をおうえんすることだ。—そう気がついたのだ。」という文章です。戦争は良くないことですが、苦しい戦争中や戦後に人々が食べ物分け合うということ、人の命をおうえんすることこそが本当の正義だということを理解できたからです。

二つ目は、「正義を行い、人を助けようとしたら、自分も傷つくことをかくごしなればいけない。」という文です。なぜなら、本当の正義を知ったからこそこそ出てきた答えだと思ったからです。

ぼくはアンパンマンの登場人物の名前に興味を持ち調べてみました。調べた理由は、アンパンマンにはおもしろい名前の登場人物がたくさん

出てくるからです。調べて分かったことは、アンパンマンの登場人物には食べ物や日用品がモチーフにされ、子どもが覚えやすい名前が使われたことです。たしかにアンパンマンには食べ物や日用品、さらには覚えやすい名前が多く使われていると思いました。

最後に感想です。ぼくは、やなせたかしの話にとっても感動しました。なぜなら、幼い頃に父親を亡くし、さらに弟の千尋まで亡くしてつらい時期を過ごしたのに、夢をあきらめずマンガ家として独立し、最終的にアンパンマンの作者になることができたからです。

ぼくはこのお話を読んで、アンパンマンに興味を持つことができませんでした。あなたもぜひ興味を持って読んでみてはどうですか。ぼくは、たかしのように「あきらめないこと」をマネしたいと思います。

### 死んでもまだ残るやなせたかしの正義

ユヌス 美柔

わたしは、「やなせたかし アンパンマンの勇氣」を読んで心に残った文は「本当の正義とは、おなががすいている人に食べ物をつけてあげることだ。」でした。その理由は、たかしさんは本当のうれしさに気が付く人だと思ったからです。そしてその考えのおかげでアンパンマンと人生のおうえんが始まりました。彼自身戦争を経験して生きていくことの難しさを理解しています。そして「正義」を探して見つかったことがすばらしいと思いました。

もう一つ心に残ったたかさんの行動は、自分が手術や入院などたくさんしている九十才のすがたでも、死ぬまで永遠に人の命のおうえんをしているところでした。なぜわたしがそう思ったかというところを後回しにして、知らない人までもおうえんしているからでした。

このお話を読んで、やなせたかさんの本当の正義、勇氣や本物のヒーローの考えはわたしの考えと少しちがうのでびっくりしました。そ

れは、たかしさんが考えている本当の勇氣がわいているかどうかの考えでした。自分の今までの経験を考えるとたかしの考えが正しいのかなと思いました。

わたしは、このテーマにあてはまる東日本大震災のことを調べてみました。とくにひなん所の様子や、安全の対策です。そのことを調べたかった理由は、やなせたかしさんは、どういう経験をしてアンパンマンをかき続けたのかを知りたかったからです。調べて分かったことがいくつもありました。その一つは、寒くて食べ物になかったけれど「TKB+W」の仕組みで生きのびたことです。TKBはトイレ、キッチン、ベットのことで、Wは、暖めていることです。そのWを守るためにみんなはダンボールを組み合わせて床より暖かくなるダンボールベットを活用していたそうです。ひなん所の外では人が何人も亡くなり、行方不明の人は何百人もこえていたそうです。

この調べで、つらく心に悲しみをおっている人を助けることや食べ物をゆずり合っておたがいをおうえんすることができていたことがすごいと思いました。

そして自分でもつらいのに相手を思いやるのがやなせたかさんの言っている「正義」なのだと思います。

### 忘れないことの大切さ

今井 七碧

この話の主人公は「楠木綾」という女の子です。ある日、綾は「原爆供養塔納骨名簿」と書かれてあるポスターを見つけました。そこには、綾と名前も年齢（ねんれい）も同じ「楠木アヤ」と書いてありました。気になった綾は、広島市の平和記念公園に行き、たった一発の爆弾でこんなにひどいことになるのと知りショックを受けました。その後、綾は原爆供養塔でおばあさんに会いました。自分と同じ名前がポスターにあっ

た事を話すと「アヤちゃんのことをずっとわすれんでおつてね。」と言われ、綾は忘れないでいることの大切さを考えるようになります。

この話で心に残った場面は、ポスターの事は忘れたと思っていた綾が、その晩(ぼん)、夢に見た場面です。綾はまだポスターの事が気になっていたので夢を見たのだと思います。もし私が自分の名前が書いてあるポスターを見つけたら、きっと綾と同じ様にポスターについて調べたくなると思います。そんな綾が資料館に行つて、陳列ケースに並べられた資料を見た時、原爆の被害の大きさを知つて打ちのめされた気持ちになつたと思います。途中(とちゆう)で綾は頭がくらくらしてしまつたけれど、それでも資料を見続けたのは、被爆者の人たちが原爆でどれだけつらい思いをしたかをちゃんと知つておきたかつたからだと思います。

もう一つ心に残つた事は、「この楠木アヤちゃんの夢やら希望やらが、あなたの夢や希望にもなつて、かなうとええねえ。元気で長う生きて、幸せにおくらしなさいよ。」というおばあさんの言葉です。私が最初にこの文を読んだ時は、私達がアヤの夢や希望まで背負うなんてできないんじゃないかと思ひました。でも、この話や原爆について学んでいくうちに、私達がアヤ達の思いを受け継(つ)いでいけば、もう世界で原爆で苦しむ人達はいなくなるのではないかと考えるようになりました。もし次にアヤが生まれてくる時は、幸せに長生きできたらいいなと思います。

授業の中で私は「さだ子と千羽づる」という話も読みました。この話のさだ子は、小さい頃に原爆の放射線を浴びたせいで数年後にその影響(えいきよう)で亡くなつてしまいました。その話を聞いて、放射線がどれだけ人体に影響を与えるのかを調べてみました。調べて分かつた事は、放射線を浴びると体の中の細胞が傷(きず)ついてしまうという事です。また、放射線を一度に受ける量によって、症状(しょうじょう)がちがう事も知りました。他にもさだ子のように何年も経つた後に症状が出る事もあるそうです。私は、助かつたと思つていても何年も後に症状が出る事もあると知つて、より原爆の放射線が恐(こわ)いと思

うようになりました。

この話を読んで、原爆はもう二度と使つてはいけなしいし、その恐(おそ)ろしさをもつとたくさんの人が知ることが必要だと改めて思ひました。綾が言つていたように世界中の誰(だれ)も二度と同じような目に合わないでほしいと思います。

「たずねびと」

新井 俊稀

ぼくが読んだ「たずねびと」は、主人公の楠木綾が駅の構内で「原爆供養塔納骨名簿」のポスターを見つけるところから始まります。このポスターのちようど真ん中辺りに書いてあつたのが、自分と同じ名前、同じ年齢(ねんれい)の「楠木アヤ」でした。なぜこのアヤちゃんには何十年も前からだれも「心当たり」がないのか不思議に思つた綾は、家族と相談して、お兄ちゃんと一緒に(いっしょ)に広島県の平和記念公園に行くことにしました。平和記念公園では、原爆が落とされた時の写真を見て、綾は大きなショックを受けます。しかし、原爆で亡(な)くなつてしまつた人達を自分たちが忘れないでいたら、二度と同じことが起こらないですむかもしれないと綾は希望を持ちました。

ぼくはこのお話を読んで、広島県の原爆資料館に興味を持ちました。このお話には、原爆でくじやりととけてしまつたガラスビンや石段に残る人の形のかげを見た綾が「うちのめされるような気持ちのまま、資料館を出た」ことが書かれています。ぼくはこれほどショックを受けたことがないので、原爆資料館の展示がどのような物か気になりました。また、ぼくも綾と同じで、原爆で十四万人も亡くなつてしまつたことにおどろきました。そして、なぜこんなにたくさんの方が亡くなつてしまつたのか不思議に思ひました。調べてみると、原子爆弾の人へのえいきようは、熱線、爆風、放射線、黒い雨の四つに分けられることを知りま

した。熱線は、原爆が爆発したしゅん間、半径約二百メートルの火球ができ、地面がとて熱くなることです。これによって人々は灰になったり、大きなやけどを負ったりしました。爆風は、人々や建物を吹き飛ばす暴風のことです。放射線は見たたりさわったりできなくて、浴びすぎるとガンなどの病気になってしまいます。黒い雨は放射性物質を含（ふく）んだ雨のことです。そのため、放射線と同じえいきょうを人間に与えます。

こんなに強い兵器を作ったアメリカの技術力はすごいと思いますが、原爆を人に向かって使うのはひどいと思いました。原爆を経験した人々は何も悪いことはしていないのに、こんな亡くなり方がかわいそうだと思いました。特に放射線は、時間をかけて人間にえいきょうを与えて、生きている間苦しみが続きます。さらに、被爆してしばらくしてからガンになる可能性があるのです、残こくだと思いました。自分は戦争のない時代に生まれていて、とても幸せだと思えます。

「たずねびと」を読んで

大平 怜

原爆供養塔納骨名簿で「楠木アヤ」という名前と年れいが同じ子がとても気になった綾は兄と一緒に広島を訪れた。そこで被爆者のおばあさんに会った。そのおばあさんに「楠木アヤ」のことを話した。するとおばあさんに、「アヤちゃんのことを、ずっとわすれんでおつてね。」と言われて、綾がその言葉について考えたという話です。

ぼくが心に残った文は、おばあさんの言葉から考えた「ここでどんなにおそろしいことがあったかということとわすれないでいたら、世界中のだれも、二度と同じようなめにあわないですむかもしれない。」という文です。なぜなら、被爆してしまった人々のことをわすれないでいるというやさしい心と他の人につらい思いをさせたくないという思

いやりがある心に感動したからです。

ぼくが二つ目に心に残ったのは、「わたしぐらいの子。わたしより小さな子。おさない子どもたち。赤ちゃんまで。」という文章です。なぜなら、被爆してしまった人々の中には、小さな子や赤ちゃんまでいたということにおどろいたからです。まだたくさん生きることができたのに、一発の爆弾で生きることができなくなり、人生の可能性がなくなってしまったことがとても悲しいと思いました。

また、「十四万人なんて想像できないよ。」という言葉も印象に残りました。なぜなら、ぼくも十四万というたくさんの人々が亡くなったことにおどろいた気持ちがあったので、主人公の綾と気持ちが一緒（いっしょ）だったからです。

ぼくは、原爆の性質についてくわしく調べました。そのことを調べた理由は、「たずねびと」は主に原爆で亡くなってしまったことについての話だから、原爆についてくわしく知れば、「たずねびと」がより分かりやすくなるのではないかと思ったからです。それと元々原子爆弾に興味があり、調べてみたいなと思っていたからです。

調べて分かったことは、原爆とは、ウランやプルトニウムの核分裂反応（かくぶんれつはんのう）を利用して大量のエネルギーを生じさせる核兵器で、核分裂の際に放出させる中性子が次の核分裂を引き起こす「連鎖（れんさ）反応」が短い時間で次々と広がり、非常に大きな爆発と熱線、放射線が発生し、街を破壊（はかい）します。その原爆のコードネームは「リトルボーイ」ということなどです。

ぼくが調べて分かったことについて考えたり、思ったりしたことは、被爆して亡くなった人々は、とても苦しみながら亡くなっていったり、苦しむ間もなく亡くなってしまったりした人が本当にいたことが分かり、悲しいと思いました。あれほどの力があることにとてもおどろきました。

ぼくはこの話を読み、今元気に生きていることが当たり前じやないと分かり、今の平和を守っていくことが大切だと思いました。

「たずねびと」を読んで

田岡 功志明

この物語では、楠木綾という主人公が、ある日駅前で自分と同じ名前が書かれたポスターを目にします。しかしその上には、「原爆供養塔納骨名簿」と書いてありました。綾はその子の事が気になって、もう一人の「たずねびと」を探（さが）しに行きます。

ぼくが「たずねびと」を読んで思ったことは三つあります。一つ目は、戦争は本当にしたらだめだという事です。なぜかという、戦争をしても、ただ罪のない人々が死んでしまうだけだからです。特に「たずねびと」に、原爆が落とされた年の終わりには約十四万人もの人が亡（な）くなったと書いてあり、ショックを受けました。

二つ目に思った事は、おばあさんが「たずねびと」の最後に言った、「アヤちゃんよかったねえ。もう一人のアヤちゃんがあなたに会いに来てくれたよ。」という所が少し切なく感じた事です。なぜ切なく感じたかというと、原爆さえ落ちていなかったら、楠木アヤはまだ生きていたかもしれないからです。もし生きていたら、楠木綾はもう一人の楠木アヤと会う事ができて、二人ともおどろいたり、うれしくなっていたかもしれないからです。しかし、実際に二人が会う事がないと考えると、切なく感じました。

三つ目に思った事は、原爆で死んだ人達がすごくかわいそうだという事です。なぜかという、原爆が落ちる前は、いつもどおりにぼく達みたいにくらしていた人が、何も悪い事をしていないのに亡くなってしまうからです。特に教科書に書いてあった、くにやりとけたガラスビン、石段に残る人のかげや、原爆の四千度の熱を考えると、想像を絶する悲劇（ひげき）が広島と長崎で起きたと思ひ、心がいたみました。

また、先生が原爆で死んだ女の子のお話、「さだ子と千羽づる」を教えてくださいました。ぼくはそれから、さだ子と千羽づるの事について、も

う少し調べてみる事にしました。

そこで分かった事は、さだ子さんは、二さいの時に被爆し、十年後の十一さいの時に白血病を発症（はつしょう）したという事です。さだ子さんは、入院中みんなと遊んだり話したいという気持ちが強く、病気が治るように願いをこめて、千羽づるを折りました。だけど、願いはかなわず亡くなってしまいました。

ぼくは、原爆はおそろしいと思いました。原爆はすぐに死ぬだけでなく、何十年か経つてから急に病気が発症し、死ぬ事もあるからです。ぼくは、原爆が二度とこの世界で使われる事がないように願っています。最後にこの本を読んで、ぼくは、戦争や原爆はともおそろしいと改めて思いました。それと同時に、戦争とはだれが悪いのか疑問（ぎもん）が出てきました。ぼくは、もつと戦争のことについて勉強して、平和な時代がいつか来るようにしたいです。